

「住民との対話の場」結果報告

2024年6月19日

対話の場ワーキンググループ

今日のまとめの作成までのプロセス説明

1. おしゃべり会でグラフィック作成
2. グラフィックをAIにてテキストマイニング(描かれている文言を抜き出し)
3. AIでテキストマイニング結果のまとめを作成(作成者の恣意性を無くすために、敢えてAIを使っています)
4. 山崎にてまとめ作成
5. ワーキンググループでディスカッション
6. 山崎にて本資料作成

反省点・懸念点

- 関係各位の多大なる尽力にもかかわらず、参加者の属性にある程度の偏りがあった。
- 基本方針段階での意見収集のため、抽象的な意見を期待していたが、参加者からの意見は具体的な提案が多かった。
- 一部の参加者で、これまで届けようとしてきた声が届いたという感触を持っておらず、強い感情をもって改めて届けたいと大きな声を発する方が何名かいた。

「基本方針」への盛り込みの検討を推奨する 参加者の声

全体感に関する意見 (まちづくり全般・庁舎公民館病院一体運営など)

- 町の中心的機能が集積する場になることから、場のことだけを考えるのではなく、地区・地域・まちづくり全体との連続性を捉えて設計して欲しい。
- 軽井沢のイメージを体現するような、木々や緑に囲まれた一体開発をして欲しい。庁舎・公民館・病院の繋がりを意識して、様々な人が散歩ができるような場にして欲しい。
- 一体として、防災拠点になるような機能を想定して欲しい。
- 庭や森で、いろんな事ができるような場にして欲しい。
 - 森の公民館、庭で子どもたちが自由に遊べるようにして欲しい、遊具が欲しい、イベント開催ができるようにして欲しい
- 自家用車ではない便利な交通手段を確保して欲しい

庁舎に関する意見_(順不同)

1. 適切で透明性の高い事業費の作成が必要。建築費用のみならず、断熱性能などに代表されるランニングコストを加味した上での計画作りをして欲しい。
2. 耐用年数を100年程度は見込んだ、建て替える必要のない性能を持った建築をすべき。華美な要素は排除し、将来にわたって柔軟に機能性を変化させることができる設計をして欲しい。
3. 職員の働きやすさは重要な要素である。DXや働き方改革なども見据えた、職員が働きやすい環境を整え、求人困難な現代においても離職率を下げられるような職場環境にして欲しい。
4. 住民の使い勝手の優先度を上げた設計を考慮して欲しい。縦割りとなっている役場組織の内部の都合のみで決めず、利用者の意見を取り入れ、他自治体の先進的な事例を参考にした設計を進めて欲しい。
5. 今後のプロセスの透明性を上げ、住民の意見を反映できる機会を担保して欲しい。

公民館に関する意見(順不同)

1. 子供から大人、高齢者など様々な人々が柔軟性高く利用でき、交わり、そこでコミュニティが生まれ育まれていくような場所にして欲しい。
2. 特に、町の未来を作っていく子ども・中高生が積極的に利用したくなるような場所にして欲しい。公民館がかっこよく、クールな場所として捉えられ、行くと常に誰かが居て、自然と会話が生まれるような場所が良い。
3. 文化活動やサブカルチャー活動、ボランティア活動など様々な活動に使い勝手の良い建物の設計をして欲しい。地域文化を伝承できる場所にして欲しい。
4. 地域のイベント・祭りや、様々なチャレンジをリスク低くできる機能を持って欲しい。建物内のみならず庭や森も使うことができ、雨や雪の日でもイベントが開催できるようなホールなど。
5. 災害時の避難所としての機能や、災害支援のヘッドクォーターとしての機能を念頭においた設計をして欲しい。

公民館に関する具体的意見

1. 使い方

- 子どもの使い勝手:おしゃべりながら勉強できる、ネット環境が整っている、マンガ図書館、クールな場所、カフェ、目的なくあつまれる
- 大人の使い勝手:カフェ、チャレンジキッチン、民間による運営、お金かからず楽しめる、人と繋がることのできる、情報を得られる、多世代交流ができる
- 用途:社会教育法下では実現できない営利目的でも使えるようにしたい、ボランティア活動の拠点にしたい、祭りが行われる場所

2. 機能

- 部屋の大きさの利便性(可変)、冷暖房、ユニバーサル対応、
- 演劇・音楽・映画鑑賞のための音響・映像・座席などの機能
- カフェ・飲食・コワーキングなど人が集まりやすい機能